



基本の 7ツク

春の河 小景異情

教科書

14〜15ページ

答え

1ページ

勉強した日

月 日

学習の目標
●春の景色を想像しながら、詩を読み味わおう。
●声に出して詩を読んでみよう。

★春の河

1 次の詩を読んで、問題に答えましょう。

春の河

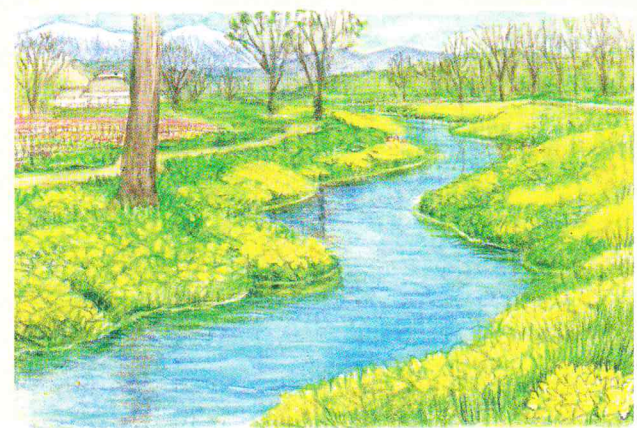
(たつぷり) たつぷりと

春は

小さな川々まで

あふれてゐる

あふれてゐる



山村 暮鳥

5

1 「小さな川々」に流れている水の量が分かる言葉を、詩の中から二つ書きぬきましょう。

川の様子を表す言葉をおさへよう。

2

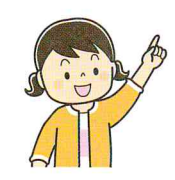
よく出る この詩には、どのような様子がえがかれていますか。一つに○をつけましょう。

ア () きびしい寒さの中、川を見ながら早く春がくることを願う人々の様子。

イ () 長かった冬が終わって春がおとずれ、川の水が豊かに流れている様子。

ウ () 春から夏に移ろうとするころの、緑豊かで美しい川ぞいの風景の様子。

あたかくなつて雪がとけた水、つまり、雪解け水が、川に流れているんだよ。



言葉の意味
アイト

3ページ2行 着く…ここでは、花が「さく」という意味。

★小景異情

2 次の詩を読んで、問題に答えましょう。

小景異情

あんずよ

花着け

地ぞ早やに輝やけ

あんずよ花着け

あんずよ燃えよ



室生 犀星

5

1 「地ぞ早やに輝やけ」とありますが、作者は、どういうことを願っているのですか。

うに明るくなること。

作者は、何に対して、どういふことをくり返しよびかけているかな。



2

よく出る この詩には、作者のどのような気持ちがかめられていますか。一つに○をつけましょう。

ア () 早くあたたかくなって、春らしい明るい風景が広がってほしいと思う気持ち。

イ () 目の前に広がっている、春の美しい風景がずっと続いてほしいと思う気持ち。

ウ () 夏の暑さに負けることなく、植物が元気に育っていることに感動する気持ち。

あんずは、春の初めにさく花だよ。白やすすべに色のきれいな花なんだ。



ものしりメモ

室生犀星は、石川県金沢市出身の詩人。金沢市を流れる犀川のほとりには、「小景異情」の一節がぎざまれた石碑があるんだよ。

内容を
つかもう！

★ 帰りの道

教科書を読んで、答えましょう。
1 一つの出来事が書かれていますか。一つに○をつけましょう。
教科書 18 ページ

ア () 学校へ行くとき。
イ () 学校での授業中。
ウ () 学校から帰るとき。

2 だれの視点から書かれているかを、場面ごとにまとめました。順番になるよう、() に 1・2 を書きましょう。
教科書 18～29 ページ

() 周也の視点から書かれている。
() 律の視点から書かれている。



同じ出来事が、二人の人物の視点から書かれている物語だよ。
視点とは、「語り手がどこから見て語っているか」ということだよ。

それぞれ ぺらぺら まじまじ

1 と顔を見つめる。
2 と落ち着かない。

人物の様子を表す言葉を使って、文を作ってみよう。



3 言葉の知識

() に合う言葉を、から選んで書きましょう。

1 はら がへる。
2 実力を める。
3 西日の はんしや。
4 ちいさ の施設。
5 作品の てんじ。
6 外国を ほうもん する。

2 漢字の書き

漢字を書きましょう。

6 単純

7 背中
8 舌

9 乱打
10 所蔵

11 降る
12 異物

4 言葉の意味 ○をつけましょう。
1 20 話のテンポについていく。
ア () 長さ。
イ () 速さ。
ウ () おもしろさ。

2 21 天をあおぐ。
ア () 見上げる。
イ () ふり向く。
ウ () 無視する。

3 22 とつさに頭にうかぶ。
ア () すぐさま。
イ () しばらく。
ウ () ぼんやり。

4 24 ばつの悪さをかくす。
ア () 子どもらしさ。
イ () 行いの悪さ。
ウ () はずかしさ。

5 24 しばしばたきを止める。
ア () ずっと。
イ () 少しの間。
ウ () 急いで。

6 26 母親の小言が頭をかすめる。
ア () ずっとはなれない。
イ () 何度も出てくる。
ウ () 現れてすぐ消える。

ものしりメモ

森絵都さんは、2006年に「風に舞いあがるビニールシート」という作品で直木賞を受賞しているんだ。直木賞は、芥川賞と並んで毎回話題になる文学賞だよ。

新しい漢字



基本の
7-1

帰りの道

地域の施設を活用しよう

1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

教科書

17～35 ページ

答え

1 ページ

勉強した日

月 日

学習の目標

● 視点のちがいに着目し、人物像をとらえよう。
● 人物の心情を想像しながら読もう。

まなサポ

を記録
フて表示
に設定

える
ストを
ロード



漢字練習ノート 3～5 ページ

1 漢字の読み

読みがなを横に書きましょう。

1 砂ぼこり

2 階段

3 並べる

4 降る

5 異物

○ 新しく学習する漢字
● 読み方が新しい漢字

22	21	20	19	19	18	17
降	並	段	腹	砂	穴	視
ハ時以降。雨が降る。 おる コウ	桜の並木。かたを並べる。 ならみ ならびに	階段をのぼる。段落。 だんらく	山の中腹。腹がへる。 はら	砂糖を入れる。砂ぼこり。 さとう	穴が空く。落とし穴。 あな	視点のちがいに。広い視野。 しつてん
10画	8画	9画	13画	9画	5画	11画
降	並	段	腹	砂	穴	視

24	24	22	22	22	22
背	射	純	異	洗	認
写真の背景。背中をおす。 はいけい せなか	光の反射。矢を射る。 はんしや や	単純な問題。純真な人。 たんじゆん じゆん	異物。意見が異なる。 いぶつ いけん	洗面所。水で洗い流す。 せんめんじよ みづ	実力を認める。認め印。 じつりき めとめる
9画	10画	10画	11画	9画	14画
背	射	純	異	洗	認

35	35	34	34	28	27
訪	展	蔵	域	乱	舌
訪問する。外国を訪れる。 ほうもん たずねる	作品の展示。都市の発展。 てんし はつてん	資料を所蔵する。冷蔵庫。 しやうりやう れいぞうこ	雨の多い地域。川の流域。 あまの多いちいき がわのりゆういき	乱打する。列が乱れる。 らんだ れつ	舌が回る。舌つづみ。 した
11画	10画	15画	11画	7画	6画
訪	展	蔵	域	乱	舌





練習の7-1

帰り道

1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

教科書

17~35 ページ

答え

1 ページ

勉強した日

月 日

6

次の文章を読んで、問題に答えましょう。

「ああ、腹へった。今日の夕飯、何かなあ。あしたの給食、何かなあ。」

「な、律。昨日の野球、見たか。」

「夏休みまで、あと何日だったっけ。」

周也の話があちこち飛ぶのは、いつものこと。なのに、今日のぼくにはついていけない。まるでなんにもなかったみたいに、周也はふだんと変わらない。ぼくだけがあのことを引きずっているみたいで、一歩前を行く紺色のパーカーが、どんどんくらしく見えてくる。

今日の昼休み、友達五人でしゃべっているうちに、「どっちが好き。」って話になった。「海と山は。」「夏と冬は。」「ラーメンとカレーは。」「歯ブラシのかたいのとやわらかいのは。」「みんなで順に質問を出し合い、「海。」「海。」「山。」「海。」「と、ぼんぼん答えていく。そのテンポに、ぼくだけついていけないかった。「どっちかなあ。」とか、「どっちもかな。」とか、一人でごよごよ言っていたら、周也が急にいらついた目でぼくをにらんだんだ。

「どっちも好きってのは、どっちも好きじゃないのと、いっしょじゃないの。」

先のとがったするどいものが、みぞおちの辺りにずきとささった。そんな気がした。そのまま今もささり続けて、歩いて、歩いて、ふり落とせない。

返事をしないぼくに白けたのか、周也の口数もしだいに減って、大通りの歩道橋をわたるころには、二人してすっかりだまりこんでいた。階段をのぼる周也と、ぼくとの間に、きよりが開く。広がる。ここ一年でぐんと高くなった頭の位置。たくましくなった足どり。ぼくより半年早く生まれた周也は、これからもずっと、どんなこともテンポよく乗りこえて、ぐんぐん前へ進んでいくんだらう。

はあ。声にならないため息が、ぼくの口からこぼれて、足元のかげにとけていく。どうして、ぼく、すぐに立ち止まっちゃうんだらう。思っていることが、なんでも言えないんだらう。ぼくは海のこんなところが好きだ。山のこんなところも好きだ。その「こんな」をうまく言葉にできたなら、周也とちゃんとかたを並べて、歩いていけるのかな。「どっちも好き」と「どっちも好きじゃない」がいっしょなら、「言えなかったこと」と「なかったこと」もいっしょになっちゃうのかな。考えるほどに、みぞおちの辺りが重くなる。

森絵都「帰り道」による



1 「ぼくだけがあのことを引きずっている」について答えましょう。
(1) 「あのこと」とは、どのようなことですか。

今日の

に、周也が

目で「ぼく」(律)をにらみ、「どっちも好きってのは、どっちも好きじゃないのと、いっしょじゃないの。」と言ったこと。

(2) 「あのこと」があったとき、「ぼく」はどんな気がしましたか。
ものが、みぞおちの辺りにささった気がした。

(3) 「あのことを引きずっている」という「ぼく」に対して、周也はどのような様子ですか。

ふだんと

様子。

(4) 周也の様子を見て、「ぼく」はどう思いましたか。

周也が

思えた。

周也の着ているものが「ぼく」にはどのようなように見えてきたかな。

2 「階段をのぼる周也と、ぼくとの間に、きよりが開く。」とありますが、このとき、「ぼく」は周也を見てどう思いましたか。

●頭の位置

ここ一年で

なった。

なった。

●足どり

ここ一年で

なった。

なった。

●これからずっと

どんなことも

乗りこえて、

進んでいくんだらう。

3 「声にならないため息が、ぼくの口からこぼれて、足元のかげにとけていく。」とありますが、このとき、「ぼく」はどのようなことを思っていますか。一つに○をつけましょう。

ア () 周也に対して引け目を感じ、思っていることをうまく言葉にできなかったらいいのにと感じている。

イ () 自分は、周也のように思っていることを言えないと思いつつ、別にそれでもよいと感じている。

ウ () 自分の思っていることを分かってくれない周也に、言葉に表すことのできないかきを感じている。

「言葉にすくなく」「こぼれて」「ぼく」は、どっぴりしたいときをえているらう。



ものしりメモ

周也が着ている「パーカー」とは、頭にかぶる「フード」がついている、防寒用の衣服のことだよ。

言葉の意味

20行 みぞおち…おなかの上のほうにある、くぼんだところ。
26行 しだいに…だんだん。少しずつ。



やすい！
力がつく！
ふるくて、

すじなど

トとなる

実力を

ストと

スト

ト
きます。

ださい。

次の
ださい。

なポ

記録
て表示
設定

る
トを
ード



1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう



練習の 7 1 2

帰り道

次の文章を読んで、問題に答えましょう。

昼休み、みんなで話をしていたとき、はつきりしない律にじりじりして、つい、言わなくてもいいことを言った。軽くつつこんだつもりが、律の顔を見て、重くひびいてしまったのが分かった。まずい、と思うも、もうおそい。以降、絶対にぼくの顔を見ようとしないう律のことが気になって、野球の練習を休んでまで玄関口で待ちぶせをしたのに、いざ並んで歩きだすと、気まずいちゃんもくにたえられず、またぺらぺらとよけいなことはかりしゃべっている自分がいた。

「この前、給食でプリンが出てから、もうずいぶんたつよな。」
「むし歯が自然に治ればなあ。」

「山田んちの姉ちゃん、一輪車が得意なの、知ってたか。」
何を言っても、背中ごしに聞こえてくるのは、さえない足音だけ。ぼくがしゃべればしゃべるほど、その音は遠のいていくような気がする。

ふいに母親の小言が頭をかすめたのは、下校中の人かげがあつちへこつちへ枝分かれして、道がすいてきたころだった。
「周也。あなた、おしゃべりなくせて、どうして会話のキャッチボールができないの。会話っていうのは、相手の言葉を受け止めて、それをきちんと投げ返すことよ。あなたは一人で

ぼんぼん球を放っているだけで、それじゃ、ピンポンの壁打ちといっしょ。」
ピンポン。なんだそりや、とそのときは思ったけど、今、こうして壁みたいになまじりこくっている律を相手にしていると、その意味が分かるような気がしてくる。たしかに、ぼくの言葉は軽すぎる。ぼんぼん、むだに打ちすぎる。もっとじっくりねらいを定めて、いい球を投げられたなら、律だって何か返してくれるんじゃないか。でも、いい球って、どんなだろう。考



えたとたんに、舌が止まった。何も言えない。言葉が出ない。どうしよう。あわてるほどにぼくの口は動かなくなつて、逆に、足は律からにげるようにスピードを増していく。

無言のまま歩道橋をわたった先には、しかも、市立公園が待ち受けていた。道の両側から木々のこずえがたれこめた通り道。ぼくも、車の音も、工事の騒音も聞こえない緑のトンネル。ぼくはこの静けさが大の苦手だった。

正確にいうと、だれかといるときはちんもくが苦手だ。たちまち、それと落ちて着きがなくす。何か言わなきゃってあせる。野球チームに入る前、律とよくいっしょに帰っていたころも、ぼくはこの公園を通りかかるたび、しんとした空気をかきまぜるみたいに、ピンポン球を乱打せずにいられなかった。律のほうはちんもくなんてちつとも気にせず、いつだって、マイペースなものだったけど。

森 絵都「帰り道」による

1 「ぼく」(周也)が律といっしょに帰ろうと思ったのは、なぜですか。
昼休みの出来事以降、

から。

2 「ぼく」が「ぺらぺらとよけいなことばかりしゃべっている」のは、なぜですか。

「ぼく」は、律を傷つけてしまったと思っているね。



直前の「たえられず」の内容をよめよう。

3 「会話のキャッチボール」とは、具体的にはどうすることですか。

4 「よく出る」③「ピンポンの壁打ちといっしょ」とは、どういうことですか。一つに○をつけましょう。

相手ではなく、壁に向かって打っているんだよ。

ア () 相手がそこにいるのに話そうとしないで、自分の心の中だけでしゃべっているということ。

イ () 相手のことを考えず、自分の言いたいことだけを思いつくまにしゃべっているということ。

ウ () 自分が言いたいことをよく考えて、それが相手にきちんと伝わるようにしゃべっているということ。

5 「その意味が分かるような気がしてくる」とありますが、「ぼく」はどういうことに気づいたのですか。

「ぼく」の言葉は () し、 ()

に話しすぎるということ。

6 「よく出る」⑤「ピンポン球を乱打せずにいられなかった」について答えましょう。

「ピンポン球を乱打」すとは、() かな。

「ぼく」は () が () だから。

(2) そのような「ぼく」に対して、律はいつものような様子でしたか。

() などちつとも気にしないで、いつもの様子。

「ピンポン」は英語。球をラケットで打つ音や球がはざむ音から、この名前がついたんだ。ただし、卓球の英語での正式な競技名は「テーブルテニス」だよ。

言葉の意味

1行 じりじり…だんだんいらだつ様子。 12行 さえない…暗くしずんでいる様子。
35行 たれこめる…低くおおう。 42行 乱打…むやみに打つこと。



基本の7-ク

漢字の形と音・意味 季節の言葉1 春のいぶき

教科書

36〜39ページ

答え

2ページ

勉強した日

月 日

学習の目標

● 漢字の音や意味を表す部分について知ろう。
● 二十四節気について知り、春を表す言葉に関心をもとう。

漢字練習ノート5〜6ページ

新しい漢字

筆順 1 2 3 4 5
練習しましょ。

36 教科書 36ページ 我 われ 我々の要求。我に返る。 シヨウ 8画 7画	36 承 シヨウ 8画	36 蒸 ジヨウ 13画	36 処 シヨ 5画	36 就 シュウ 12画
銀行に就職する。就任。 就	物事に対処する。処理。 処	蒸気機関車。蒸発する。 蒸		

37 律 リツ 9画	37 裁 サイ 12画	37 恩 オン 10画	36 層 ソウ 14画	36 干 カン 3画
法律にもとづく。規律。 律	裁判官。罪人を裁く。 裁	命の恩人。恩返しをする。 恩	地層の年代。高層ビル。 層	海の干拓。洗濯物を干す。 干

37 腸 チヨウ 13画	37 胃 イ 9画	37 肺 ハイ 9画	37 臓 ゾウ 19画	37 脳 ノウ 11画
腸の検査。大腸と小腸。 腸	胃で消化する。胃腸。 胃	肺にすいこむ。肺活量。 肺	心臓が動く。人間の臓器。 臓	脳の働き。各国の首脳。 脳

1 漢字の読み

読みがなを横に書きましょう。

● 新しく学習する漢字
● 読み方が新しい漢字

- 1 我々
- 2 伝承
- 3 細心
- 4 対処
- 5 就職
- 6 干す
- 7 地層
- 8 脳
- 9 心臓
- 10 肺
- 11 胃
- 12 腸

2 漢字の書き

漢字を書きましょう。

- 1 機関車
- 2 命の
- 3 さいばんかん
- 4 ほうりつ

★ 漢字の形と音・意味

3 次の□に合う漢字を□から選んで書きましょう。また、それらの漢字に共通する読み方を書きましよう。

今学期の目□を定める。

代表者を投□で決める。

読み方



★ 季節の言葉1 春のいぶき

5 次の説明に合う言葉を□から選んで、記号で答えましよう。

- 1 だんだんあたたかくなり、すがすがしく、明るい空気に満ちあふれるころ。(四月五日ごろ)
- 2 こよみのうえで、春が始まる日。(二月四日ごろ)
- 3 雪が雨に変わり、積もった雪が解け始めるころ。(二月十九日ごろ)

- ア 雨水
- イ 清明
- ウ 立春



6 次の短歌と俳句を読んで、問題に答えましよう。

A 木立より雪解のしづく落つるおと
聞きつつわれは歩みをとどむ

B 啓蟄の蛇はや花粉まみれかな
掘り返す塊光る穀雨かな

C

斎藤 茂吉
星野 立子
西山 泊雲

1 Aの短歌で、作者は何に春のおとずれを感じていますか。

が解けて、木立からしづくが落ちる音。

2 B・Cの俳句から、二十四節気を表す言葉を書きぬきましよう。

- B
- C

1 易 市

部分 () 意味 ()

2 走 主

部分 () 意味 ()

完成した漢字の意味も考えてみよう。



- ア シ イ 月 ウ イ
- エ 水に関係する意味。
- オ 体に関係する意味。
- カ 「行く」や「道」などの意味。

漢字が中国から日本に伝わったのは、4世紀ごろだといわれている。「畑」など、その後に日本で作られた漢字もあるよ。

すい!
がつく!
ふるくて。

すじなど。

トとなる

実力を

ストと

スト

ト
きます。

ださい。

次の
ださい。

まな
ポ

記録
て表示
二設定

える
ストを
コード



まどめの テスト

帰り道

漢字の形と音・意味

1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

教科書

17〜39ページ

答え

2ページ

勉強した日

月 日



得点

/100点

1 次の文章を読んで、問題に答えましょう。

なんだ、と思う間もなく、ぼくのほおに最初の一滴が当たった。大つぶの水玉がみるみる地面をおおっていく。天気雨——頭では分かっているながらも、ピンポン球のことはかり考えていたせいか、空からじゃんじゃん降ってくるそれが、ぼくの目には一しゅん、無数の白い球みたいにつつたんだ。

ぼくがむだに放ってきた球の逆襲。「うおっ。」と思わずとび上がった。後ろからも「何これ。」と律の声がして、ぼくたちは全身に雨を浴びながら、しばらくの間はたばたと暴れまわった。はね上がる水しぶき。びしょぬれのくつ。たがいのあわてっぷり。何もかもがむしようにおかしくて、雨が通りすぎるなり、笑いがあふれだした。律もいっしょに笑ってくれたのがうれしくて、ぼくはことさらに大声をはり上げた。はっとしたのは、爆発的な笑いが去った後、律が急にひとみを険しくしてつぶやいたときだ。

「ぼく、晴れが好きだけど、たまには、雨も好きだ。ほんとに両方、好きなんだ。」

たしかに、そうだ。晴れがいいけど、こんな雨なら大かんげい。どっちも好きってこともある。心で賛成しながらも、ぼくはとっさにそれを言葉にできなかった。こんなときにかぎって

口が動かず、できたのは、だまっとなずくだけ。なのに、なぜだか律は雨上がりみたいなのがおもにもどって、ぼくにならずき返したんだ。

「行こっか。」

「うん。」
しめった土のにおいがただようトンネルを、律と並んで再び歩きだしながら、ひよっとして——と、ぼくは思った。投げそこなった。でも、ぼくは初めて、律の言葉をちゃんと受け止めたのかもしれない。

（森 絵都「帰り道」による）



4 「ぼく、晴れが好きだけど、たまには、雨も好きだ。ほんとに両方、好きなんだ。」という言葉聞いたときの「ぼく」（周也）は、どのような様子でしたか。 [10点]

心の中で

しながら、それを言葉にできなかった。

5 「ぼくにうなずき返した」ことから、律のどのような気持ちが分かりますか。一つに○をつけましょう。 [10点]

ア () 自分が言ったことに対する答えを、言葉にしてほしいという気持ち。

イ () 自分が伝えたかったことを、分かってもらえてうれいという気持ち。

ウ () また雨が降ってくるかもしれないから、帰り道を急ぎたいという気持ち。

6 よく出る! 「律と並んで再び歩きだし」た「ぼく」は、どういうことを思いましたか。 [10点]

ということ。

2 次の□に合う漢字を□から選んで書きましょう。また、それらの漢字に共通する読み方を書きましよう。 [10点]

1 手 □ に予定を書き記す。
児童会の会 □ を選ぶ。
試合を前にして、きん □ する。

長 張 帳

読み方



2 三角形の面 □ を求める。
国語の成 □ が良くなる。
キャプテンとしての □ 任を果たす。

貴 積 績

読み方



3 卒業の記念に □ 画を制作する。
十二時になったので、ご □ を食べる。
□ 対の意見を述べる。

反 板 版 飯

読み方



天気雨は、日が照っているのにさっと降るにわか雨。「きつねのよめいり」ともいうよ。

6行 逆襲…せめられていたほうが、逆にこうげきすること。
14行 つぶやく…小さな声で独り言を言う。 20行 うなずく…首をたてにふる。

言葉の意味



基本の7つ

帰り道

1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

教科書 17〜33ページ

勉強した日

月 日

帰り道

22ページ

視 あける はねる

視 みる

読み方 シ

使い方 視点・視界

11画

部首に注意。

「視」には、「よく見る・みなす」という意味があるよ。だから、「視」の部首は「ネ」(しめす)ではなく、「見」(みる)だよ。



注意!

18ページ

穴 あける はねる

穴 あな

読み方 (ケツ) あな

使い方 穴が空く・ほら穴

5画

19ページ

砂 いしへん

砂 いし

読み方 サ・(シヤ) すな

使い方 砂鉄・砂糖 砂ぼこり・砂場

9画

19ページ

腹 はねる

腹 はら

読み方 フク はら

使い方 腹痛・中腹 腹がへる

13画

「腹」を使った慣用句。

腹が立つ…いかりを感じる。

腹を決める…何かをしようと思心に決める。

腹を割る…かくさずに本心を打ち明ける。



覚えよう!

20ページ

段 はねる

段 はらう

読み方 ダン

使い方 階段・段落

9画

21ページ

並 はねる

並 なみ

読み方 (ヘイ) なみ・ならべる

使い方 並木・並の品 順に並べる・列に並び

8画

22ページ

降 おろす

降 こげん

読み方 コウ おろる・おろす

使い方 降雨・以降 車を降りる・雨が降る

10画

22ページ

認 わすれない

認 ごんべん

読み方 (ニン) みとめる

使い方 実力を認める

14画

22ページ

洗 下を長く

洗 さんずい

読み方 セン あらう

使い方 水洗・洗面所 洗い流す

9画

「洗」を使った言葉。

洗顔 洗顔

洗面 どちらも顔をあらうこと。

洗練…人がらや文章などをみがいて、上品ですぐれたものにする。



覚えよう!

22ページ

異 下を長く

異 いた

読み方 コイ

使い方 異物・異議 異なる意見

11画

反対の意味の言葉。

異性↕同性

異常↕正常



覚えよう!

ものしりメモ

「降りる」は、「バスから降りる」というように、乗り物や地位からおりるときに使うよ。

「下りる」は、「山から下りる」というように、上から下へ移るときに使うよ。

- 1 新しい漢字を読みましょう。
- ① 視点 がちがう。
- ② ぽっかり空いた 穴。
- ③ 砂 ぼこりが舞う。
- ④ 腹 がへる。
- ⑤ 階段 をのぼる。
- ⑥ かたを 並 べる。
- ⑦ 水が 降 ってくる。



- ⑧ 初夏 のにおい。
- ⑨ 真実だと 認 める。
- ⑩ 何かを 洗 い流す。
- ⑪ 異 物 が消える。
- ⑫ 単 純 に考える。
- ⑬ 西日が 反 射 する。
- ⑭ 背 中 をおさる。



- ⑮ それ 以 降 の出来事。
- ⑯ 舌 が止まる。
- ⑰ 球を 乱 打 する。
- ⑱ 異 なる点をさがす。
- ⑲ 砂 鉄 を引きつける。
- ⑳ 山の中 腹 までくる。
- *㉑ 並 の品ではない。

1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

練習の711

帰り道

教科書 17〜33ページ 答え 1ページ

勉強した日

月 日

*の漢字は新出漢字の別の読み方です。

24ページ

背 にくづき

読み方 ハイ (そむく) (そむける)

使い方 背景・背後 背中・背負う・背比べ

「射」を使った慣用句。 的を射る…うまく要点をとらえること。 例的を射た意見。

24ページ

射 すん

読み方 シャ いる

使い方 反射・発射・射げき 的を射る

22ページ

純 つき出す

読み方 ジュン

使い方 単純・純真

28ページ

乱 おつ

読み方 ラン みだれる・みだす

使い方 乱打・散乱 咲き乱れる・列を乱す

「舌」を使った言葉。 舌つづみ…おいしいものを食べて、思わず舌を鳴らすことだよ。「舌つづみ」は日本に昔からある打楽器で、舌つづみを打つように舌を鳴らすことから、こういうんだ。

27ページ

舌 した

読み方 (ゼツ) した

使い方 舌を出す・舌つづみ

ものしりメモ 「背」の訓読みには、「せ」と「せい」があるよ。「背比べ」などのときは、「せい」と読むから気をつけよう。「背比べ」などとしなないようにね。

バスを降りる。

洗面所を使う。

2 新しい漢字を書きましよう。「」は、送り仮名も書きましよう。

1 17ページ し て ん
あ な
を 変 え て 見 る。

2
あ な
を ほ る。

3
す な
ぼ こ り を は ら う。

4
は ら
が 立 つ。

5
か い だ ん
。 駅 の

6
な ら べ る
。 人 形 を

的 を 射 る。

背景をえがく。

7
ふ る
。 雨 が

8
か
が 近 づ く。

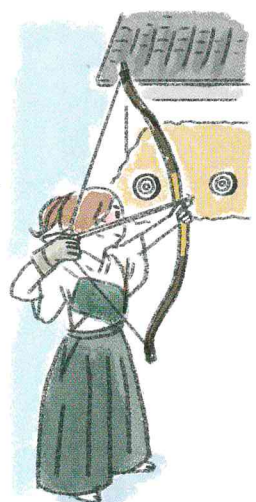
9
み と め る
。 自 分 だ と

10
あ ら い
。 土 を

11
ぶ つ
を 取 り の ぞ く。

12
な 性 格
。 た ん じ ゅ ん

物 事 の
は い け い
を 知 る。



*25

背 比
べ を す る。

*27
列 が 乱
れ る。

13
は ん し ゃ
す る。 鏡 に

14
を さ す る。 せ な か

15
に 電 話 す る。 九 時

16
を 出 す。 し た

17
す る。 ボール を

18
な る。 考 え が

3 漢字を使って文を書きましよう。() は、送り仮名も書きましよう。 は、習った漢字です。

1
も の ご と を べ つ の し て ん か ら み る。

2
す な ぼ こ り が め に は い る。

3
し つ っ れ い な た い ど に は ら が た つ。

4
お く じ ょ う へ と つ づ く か い だ ん。

5
ほ ん を じ ゅ ん ば ん に な ら べ る。

6
お ん が く し つ の か つ よ う を み と め る。

7
た ん じ ゅ ん な け い さ ん も ん だ い。

8
す い め ん が ひ か り を は ん し や す る。

9
み ご と な え ん ぎ に し た を ま く。

ここから
はってん

*19

さ て つ
を 集 め る。

*20

ち ゅ う ふ く
に た ど り 着 く。 山 の

*21

な み
の 選 手 で は な い。

*22

お
り る。 車 を

*23

せ ん め ん じ ょ
。 広 い

*24

い
る。 矢 を

1 新しい漢字を読みましょう。

2 資料を **所蔵** する。

3 小学生向けの **展示**。

4 美術館を **訪問** する。

5 祖父母の家を **訪** ねる。

1 ちいきのこうみんかんでてんじする。

2 はくぶつかんでしよぞうする。

3 ろうじんホームをほうもんする。

2 絵画を **しよぞう** する。

3 作品を **てんじ** する。

4 家庭 **ほうもん** の期間。

5 海辺の町を **たず** ねる。

1 ちいきの活動に参加する。

2 新しい漢字を書きましよう。

3 漢字を使って文を書きましよう。(は、習った漢字です。)

*の漢字は新出漢字の別の読み方です。



地域の施設を活用しよう

教科書 34～35ページ 答え 1ページ

勉強した日

月 日

34ページ

蔵 (くさかんむり) わすれない はらう はねる

読み方 ゾウ (くら)

使い方 所蔵・蔵書・冷蔵庫

15画

34ページ

域 (つちへん) わすれない はねる

読み方 イキ

使い方 地域・流域

11画

35ページ

訪 (あける) 立てる 訪問・来訪

読み方 ホウ (おとずれる)

使い方 訪問・来訪

11画

35ページ

展 (かばね) 下を長く 展示・発展・作品展

読み方 テン

使い方 展示・発展・作品展

10画

漢字の意味

「訪」は、「言」(ことば)と「方」(四方)を組み合わせてできた漢字で、「ある場所や人の家を訪ねる」という意味を表すよ。

外国を訪ねる。親せきの家を訪ねる。

漢字の意味

「展」は、「艸」(くさ)と「艮」(山)を組み合わせてできた漢字で、「開く」「広げる」という意味を表すよ。

展示会を開く。発展する。作品を展示する。



地域の施設を活用しよう

教科書 34～35ページ

勉強した日

月 日

答えとてびき

「答えとてびき」は、
とりはずすことが
できます。



光村図書版

国語 **6** 年

使い方

まちがえた問題は、もういちどよく読んで、
なぜまちがえたのかを考えましょう。正しい
答えを知るだけでなく、なぜそうなるかを考
えることが大切です。

帰り道

地域の施設を活用しよう

4・5 ページ

基本のワーク

- 1 すな
- 2 かいだん
- 3 なら
- 4 ふ
- 5 いぶつ
- 6 たんじゅん

春の河 小景異情

2・3 ページ

基本のワーク

- 1 (順序なし) たつぷり・あふれて
- 2 1 イ
- 2 1 ア
- 2 1 例 あんずの花がさく

てびき

- 1 2 春がやってきてあたたかくなり、雪解
け水が小さな川にまであふれている様子を、
「たつぷりと／春は／……あふれてゐる」
と表現しています。「あふれてゐる」のく
り返しに、春のおとずれを喜ぶ作者の気持
ちが表れています。
- 2 1 「あんずよ／花着け」という言葉がく
り返されていることに注目しましょう。
- 2 暗い冬の風景の中に、春のおとずれを告
げる美しいあんずの花がさき、明るい風景
になることを作者は願っています。

☆内容をもう！

- 1 ウ
- 2 (右から順に) 2 ↓

6・7 ページ 練習のワーク①

- 1 (1) 昼休み・いらついた
(2) (先のことがった) するどい
(3) 変わらない
(4) にくらしく
- 2 ・頭の位置…ぐんと高く
・足どり…たくましく
・これからもずっと…テンポよく。
ぐんぐん前へ
- 3 ア

てびき

- 1 (4) 8 行目に「一歩前に行く紺色のパー
カーが、どんどんにくらしく見えてくる」
とあります。「一歩前に行く紺色のパー
カー」とは、周也のことです。
- 3 「ぼく」(律)は、「どうして、ぼく、すぐ

に立ち止まっちゃうんだろう。思っていることが、なんて言えないんだろう。」と感じて「ため息」をつけています。周也のことを、自分とは対照的に「テンポよく」「ぐんぐん前へ進んでいく」存在だと思い、引け目を感じています。そして、「うまく言葉にできなかった」周也とかたを並べて歩いていくことができるのだろうかと思っています。

8・9ページ 練習のフック②

- 1 例(絶対に) ぼくの顔を見ようとしないうのことが気になった
- 2 気まずい ちんもく
- 3 相手の言葉を受け止めて、それをきちんと投げ返すこと。
- 4 イ
- 5 軽すぎる・(ぼんぼん) むだ
- 6 (1) ちんもく・苦手
(2) ちんもく・マイペース

てびき

- 1 「以降、絶対にぼくの顔を見ようとしないうのことが気になって、……待ちぶせをした」とあります。
- 3 この後、母親が、会話とは「相手の言葉を受け止めて、それをきちんと投げ返すこと」だと話しています。言葉のやり取りを、ボールを受けて投げ返すことにたとえています。
- 4 「ぼく」(周也)の言葉は、「会話のキャッチ

チボール」ではなく、「壁」に向かって、「一人ではぼんぼん球を放っているだけ」だということです。

6 (1) 「ピンポン球」は、ここでは「ぼく」が発する言葉のたとえです。それを「乱打」するとは、ねらいを定めず、むやみにしゃべることです。「ぼく」は「だれか」といふときのちんもくが「苦手」なので、つい何か言ってしまうのです。

漢字の形と音・意味 季節の言葉 1 春のいぶき

10・11ページ 基本のフック

- 1 われわれ 2 でんししょう
- 3 さいしん 4 たいしよ
- 5 しゅうしよく 6 ほ
- 7 ちそう 8 のう
- 9 しんぞう 10 はい
- 11 い 12 ちよう
- 1 蒸気 2 恩人
- 3 裁判官 4 法律
- (右から順に) 標・票
- 読み方: ひょう
- 1 部分: イ 意味: オ
- 2 部分: ウ 意味: カ
- 1 イ 2 ウ 3 ア
- 2 B 啓蟄 C 穀雨

基本のフック

「票」という部分が音を表しています。

4 完成する漢字は、順に①「腸・脈・肺」

2 「徒・復・往」です。

6 2 「啓蟄」は、冬眠していた虫が、地中からはい出てくるころ(三月六日ごろ)です。「穀雨」は、穀物をうるおし、芽を出させる春の雨が降るころ(四月二十日ごろ)です。

帰り道 漢字の形と音・意味

12・13ページ まどめのテスト

- 1 天気雨
- 2 例何もかもがむしようにおかしかったから。例律もいっしょに笑ってくれたのがうれしかったから。
- 3 賛成
- 4 賛成
- 5 イ
- 6 例(ぼくは)初めて、律の言葉をちゃんと受け止めたのかもしれない
- 1 (右から順に) 長・帳・張
- 読み方: ちよう
- 2 (右から順に) 積・績・責
- 読み方: せき
- 3 (右から順に) 版・飯・反
- 読み方: はん

聞いて、考えを深めよう 漢字の広場 1 五年生で習った漢字

14・15ページ 基本のフック

- 1 えいが 2 じまく
- 3 ほきよう 4 うら
- 5 そ
- 1 映画・字幕
- 2 補強 3 裏
- 1 仏像・文化財・保護
- 2 事故・原因・検証 3 防災・燃

てびき

- 2 直前に「何もかもがむしようにおかしくて」とあります。この部分を「……から。」など、理由を表す形でまとめましょう。
- 5 「急にひとみを険しくして」という表現から、律が「ぼく、晴れが好きだけど、……両方、好きなんだ。」という言葉、真けんに「ぼく」(周也)に伝えたかったことが分かります。それに対して「ぼく」がうなずいたということは、律の思いが「ぼく」に伝わったということです。律はそれをうれしく思って、「雨上がりたいなえがお」になつてうなずき返したのです。
- 6 最後に「ぼくは初めて、律の言葉をちゃんと受け止めたのかもしれない」とあります。

笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 ほか

16・17ページ 基本のフック

- 1 わたし(わたくし) 2 みっせつ
- 3 よ 4 こきゅう
- 5 す 6 そんざい
- 7 じこく 8 げき

てびき

- 1 最初に「わたしは、……賛成です。」と述べ、話題に対する立場を明らかにしています。
- 2 「それは、……からです。」という表現で理由を述べています。
- 4 えんぴつのほうが、しんが折れにくく、集中できることを示すため、「シャープペンシル……しんが折れやすかった」という事例に、「書いているとちゅうで、……一度中断された感じがしました」という事例を付け加えています。
- 4 河口・水質・調査
- 1 ア
- 2 それは、えんぴつのほうが、しんが折れにくく、書いているときに集中できるからです。
- 3 例しんが折れやすかった
- 4 ウ
- 5 中断
- 6 ア

☆☆内容をもっと!

(笑うから楽しい) 体・心・楽しい
(時計の時間と心の時間) (順に) ア・イ・ア・イ

18・19ページ 練習のフック①

- 1 悲しい・笑う
- 2 泣く・楽しく
- 3 笑っているときの表情
- 4 ウ
- 5 ここちよく
- 6 血液・楽しい
- 7 例体の動きも心の動きに働きかけるといふ考え(または)体を動かすことで、心を動かすこともできるといふ考え
- 8 イ

てびき

- 1 直後に「例えば」とあることに注目しましょう。「私たちは悲しいときに泣く、楽しいときに笑う」と、具体的に説明しています。
- 2 次の文で例を挙げて説明しています。
- 3 次の文の「このとき」とは、「口を横に開いて、歯が見えるように」したときです。そ

答えとてびき

光村図書版

漢字6年

「答えとてびき」は、
取り外すことが
できます。

使い方

まちがえた問題は確実に書けるまで、くり返
し書いて練習することが大切です。この本で、
教科書に出てくる漢字の使い方を覚えて、
漢字の力を身に着けましょう。

帰り道

教科書 国語六 創造

5~7ページ

練習ワーク

1

- ① ①してん ②あな ③すな ④はら
⑤かいだん ⑥なら ⑦ふ ⑧しよか
⑨みと ⑩あら ⑪いぶつ ⑫たんじゆん
⑬はんしゃ ⑭せなか ⑮いこう ⑯した
⑰らんだ ⑱こと ⑲さてつ
⑳ちゆうふく ㉑なみ ㉒お
㉓せんめんじよ ㉔い ㉕はいけい
㉖せいくら ㉗みだ

2

- ①視点 ②穴 ③砂 ④腹 ⑤階段
⑥並べる ⑦降る ⑧初夏 ⑨認める
⑩洗い ⑪異物 ⑫単純 ⑬反射 ⑭背中
⑮以降 ⑯舌 ⑰乱打 ⑱異 ⑲砂鉄
⑳中腹 ㉑並 ㉒降 ㉓洗面所 ㉔射
㉕背景

3

- ①物事を別の視点から見る。
②砂ぼこりが目に入る。
③失礼な態度に腹が立つ。
④屋上へと続く階段。
⑤本を順番に並べる。
⑥音楽室の活用を認める。
⑦単純な計算問題。
⑧水面が光を反射する。

漢字の形と音・意味

13~15ページ

練習ワーク

1

- ①われわれ ②でんしやう ③じやうき
④さいしん ⑤たいしよ ⑥しゆうしよく
⑦ほ ⑧ちそう ⑨おんじん
⑩さいばんかん ⑪ほうりつ ⑫のう
⑬しんぞう ⑭はい ⑮い ⑯ちよう
⑰かん ⑱さば

2

- ①我々(我我) ②伝承 ③蒸気 ④細心
⑤対処 ⑥就職 ⑦干す ⑧地層 ⑨恩人
⑩裁判官 ⑪法律 ⑫脳 ⑬心臓 ⑭肺

地域の施設を活用しよう

9ページ

練習ワーク

1

- ①ちいき ②しよぞう ③てんじ
④ほうもん ⑤たず

2

- ①地域 ②所蔵 ③展示 ④訪問 ⑤訪
①地域の公民館で展示する。

3

- ②博物館で所蔵する。
③老人ホームを訪問する。

⑨見事な演技に舌をまく。

7

線の言葉を、漢字と送り仮名で書きましょう。

一ツ(10点)

- ① 勇気をふるう。

- ② 野菜を水であらう。

- ③ 手を合わせておがむ。

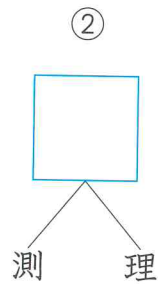
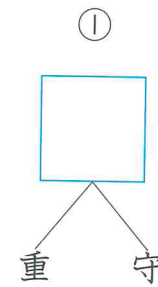
- ④ 手紙がとどく。

- ⑤ 銀行につとめる。

8

熟語が二つずつでできるように、
んで書きましょう。□にあてはまる漢字を□から選
んで書きましょう。

一ツ(4点)



諸 秘 推 専 嚴

9

次の同じ読み方をする言葉を、漢字と送り仮名で書きましょう。

一ツ(14点)

- ① うつす

- 1 水面に顔を
2 カメラで花を
3 机の場所を

- ② おさめる

- 1 税金を
2 成功を
3 国家を
4 学業を

10

次の同じ読み方をする言葉を、漢字で書きましょう。

一ツ(8点)

- ① ケントウ

- 1 実験の方法を
2 正解の
をつける。

- ② ソウゾウ

- 1 未来の自分を
2 天地
の物語。

- 15 胃 16 腸 17 干 18 裁
- ① 我々(我我)の考えを示す。
② めずらしい伝承芸能。
③ やかんから熱い蒸気が出る。
④ 細心の注意をはらって進む。
⑤ 生活の変化に対処する。
⑥ 姉の就職を祝う。
⑦ 天気の良い日にふとんを干す。
⑧ 古い地層から化石が見つかる。
⑨ 恩人に感謝する。
⑩ 裁判官が判決を下す。
⑪ 新しい法律が制定される。
⑫ 脳の神経を活性化させる。
⑬ 心臓の検査をする。
⑭ 人間の肺の機能。
⑮ 胃と腸の調子を整える。

- 15 胃 16 腸 17 干 18 裁
- ① 我々(我我)の考えを示す。
② めずらしい伝承芸能。
③ やかんから熱い蒸気が出る。
④ 細心の注意をはらって進む。
⑤ 生活の変化に対処する。
⑥ 姉の就職を祝う。
⑦ 天気の良い日にふとんを干す。
⑧ 古い地層から化石が見つかる。
⑨ 恩人に感謝する。
⑩ 裁判官が判決を下す。
⑪ 新しい法律が制定される。
⑫ 脳の神経を活性化させる。
⑬ 心臓の検査をする。
⑭ 人間の肺の機能。
⑮ 胃と腸の調子を整える。

聞いて、考えを深めよう 漢字の広場1

17・19 ページ 練習のワーク

- ① えいが ② じまく ③ ほきよう ④ うら
⑤ そ ⑥ うつ ⑦ ばくふ ⑧ おぎな
⑨ えんがん
- ① 映画 ② 字幕 ③ 補強 ④ 裏 ⑤ 沿う
⑥ 映 ⑦ 幕府 ⑧ 補 ⑨ 沿岸
- ① 映画の字幕を目で追う。

文の組み立て 私たちにできること

30・31 ページ 練習のワーク

- ① けんばいき ② こしょう ③ りっぱ
④ けいさつしよ ⑤ せんとう
⑥ けんちょう ⑦ やく ⑧ しげん
⑨ かいけつさく ⑩ わす ⑪ けんとう
⑫ きようきゅう ⑬ もぞうし ⑭ わけ
⑮ みなもと ⑯ そな ⑰ きば
- ① 券売機 ② 故障 ③ 立派 ④ 警察署
⑤ 銭湯 ⑥ 県庁 ⑦ 訳 ⑧ 資源 ⑨ 解決策
⑩ 忘れる ⑪ 検討 ⑫ 供給 ⑬ 模造紙
⑭ 訳 ⑮ 規模
- ① 駅の券売機が故障する。
② 県庁の立派な建物。
③ 警察署のそばの銭湯に行く。
④ 資源を供給する。
⑤ 解決策を検討する。
⑥ 模造紙を買うのを忘れる。

私と本 森へ

34・35 ページ 練習のワーク

- ① いっさつ ② じたく ③ すいり

- ② 柱の補強工事を行う。
③ 裏づけとなる資料を提示する。
④ 線路に沿うように菜の花がさく。
① 桜 ② 句会 ③ 復旧 ④ 禁止 ⑤ 改築
⑥ 防災 ⑦ 燃える ⑧ 航海 ⑨ 寄港(帰港)
⑩ 事故 ⑪ 検証 ⑫ 原因 ⑬ 新婦 ⑭ 囲む
⑮ 河口 ⑯ 水質 ⑰ 調査 ⑱ 山脈 ⑲ 仏像
⑳ 歴史 ㉑ 保護 ㉒ 文化財 ㉓ 耕す
㉔ 肥料 ㉕ 団地 ㉖ 入居 ㉗ 停車 ㉘ 往復
㉙ 県境

笑うから楽しい 時計の時間と心の時間

22・23 ページ 練習のワーク

- ① わたし(わたくし) ② みつせつ ③ よ
④ こきゅう ⑤ す ⑥ せんざい ⑦ じこく
⑧ げき ⑨ かんたん ⑩ つくえ ⑪ むずか
⑫ ぎもん ⑬ しご ⑭ ほぞん ⑮ きざ
⑯ はげ ⑰ なんもん ⑱ うたが
- ① 私 ② 密接 ③ 呼び ④ 呼吸 ⑤ 吸い
⑥ 存在 ⑦ 時刻 ⑧ 激 ⑨ 簡単 ⑩ 机
⑪ 難しい ⑫ 疑問 ⑬ 私語 ⑭ 保存
⑮ 難問
- ① 私は疑問に思う。
② 呼吸が乱れるのを防ぐ。
③ 正しい時刻を伝える。

話し言葉と書き言葉 たのしみは

26・27 ページ 練習のワーク

- ① たまご ② ぎゅうにゅう ③ そうぎよう
④ けいご ⑤ のぞ ⑥ ごかい ⑦ く
⑧ さが ⑨ せいざ ⑩ うち ⑪ つく
⑫ うやま ⑬ じよせつ ⑭ あやま
⑮ たんけん
- ① 卵 ② 牛乳 ③ 創業 ④ 敬語 ⑤ 除く
⑥ 誤解 ⑦ 暮らし ⑧ 探す ⑨ 星座 ⑩ 創
⑪ 敬 ⑫ 誤
- ① 卵と牛乳を探す。
② 祖父が創業した会社。
③ 敬語の表現を覚える。
④ 余計な部分を取り除く。
⑤ 相手の誤解を招く。
⑥ 豊かな暮らしについて考える。
⑦ 冬の星座を観察する。

夏休み まとめのテスト

36・37 ページ まともテスト①

- ① すな・あら ② してん・てんじ
③ ちいき・ほうもん
④ われわれ・でんしよく
⑤ ほうりつ・しゅうしよく
⑥ えいが・じまく ⑦ うら・ほきよう
⑧ 穴 ⑨ 階段 ⑩ 並べる ⑪ 初夏
⑫ 認める ⑬ 単純 ⑭ 舌 ⑮ 蒸気 ⑯ 干す
⑰ 地層 ⑱ 恩人 ㉑ 裁判官 ㉒ 胃 ㉓ 沿う
㉔ にくづき・ウ ㉕ うかんむり・エ

- ③ てへん・オ ④ りつとう・イ
⑤ ぎようにんべん・ア
- ① 1 臓 2 蔵 ② 1 敬 2 警
③ 1 まく 2 ばく ④ 1 そん 2 ぞん
⑤ 1 も 2 ば ⑥ 1 い 2 こ
⑦ 1 らん 2 みだ
⑧ 1 イ 2 イ

てびき

- ② 「蒸」は、九画目の横棒を忘れないようにしましょう。
③ 「うかんむり」が部首の漢字には他に、「家」や「室」などがあります。
④ 1 は音読み、2 は訓読みです。
⑤ 「牛」の部分の筆順に注意しましょう。また、「尸」(こぎとへん)は、三画で書きます。

38・39 ページ まともテスト②

- ① つくえ・かんたん
② ぎゅうにゅう・のぞ
③ せいざ・さが
④ けいさつしよ・けんちょう
⑤ しげん・かいけつさく
⑥ わす・けんとう ⑦ きび・すがた
⑧ 私 ⑨ 密接 ⑩ 呼び ⑪ 激 ⑫ 疑問
⑬ 券売機 ⑭ 故障 ⑮ 銭湯 ⑯ 訳 ⑰ 一冊